令和４年度　江戸川区立宇喜田小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	・学ぶ子 ・やさしい子 ・元気な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・児童の日々の生活に、教育目標が目に見える姿として表れる学校 ・健やかな体、確かな学力、豊かな心、地域を誇りに思う児童 ・使命感と責任感をもち協働、研鑽し教育力を高め合う教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ ・国語科や算数科、体育科の校内研究を行い、指導力を高め授業に活かすことができた。 ・学力調査の結果では、国語・算数とも全国平均を上回ることができた。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため制限された中であったが、外遊びの励行や運動量の確保等を行い運動意欲の向上につなげられた。 ＜課題＞ ・学習用タブレットを活用した授業を行う指導力向上を図る。 ・家庭での学習や読書の習慣を確立する。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価 取組	自己評価 成果	自己評価 成果と課題	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント	来年度に向けた改善策
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・1単位時間における個で考える時間の設定 ・ペアやトリオ、グループによる「学び合い」の学習活動設定 ・補習時間（朝学習・放課後）の確保 ・各教科等の連携教育プログラムの取組 ・ICT機器を活用した授業の取組	・授業の内容が分かりやすい（児童アンケート 肯定的回答80%） ・話し合いや学び合いの学習に積極的に取り組んでいる（児童アンケート 肯定的回答85%） ・学期末まとめワークテスト平均（国算理社）（80%） ・東京ベーシックドリル診断テスト合格（80%） ・教員へのアンケート「小中連携教育プログラムの周知徹底と修正」（教員アンケート　到達度70%）	B	B	○児童アンケート「授業の内容が分かりやすい」の肯定的回答が92%だった。 ○学期末まとめワークテスト平均（国算理社）が82%だった。 ○普段の授業や研究授業において、ペアやトリオ、グループでの話し合いに進んで取り組んでいた。 ●児童アンケート「話し合いや学び合いの学習に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答が76%だった。 ●東京ベーシックドリル診断テスト合格（74%）だった。 ●コロナがあり、小中連携が不十分であった。	B	・来年度も分かりやすい授業をお願いします。 ・確かな学力の向上を目指して、より一層の学び合いを大切にしてほしい。	・引き続き、東京ベーシックドリルの復習を計画的に実施し、学期末テストが正答率平均8割になるよう、個別指導を行う。 ・来年度は、朝学習や自主学習の内容を充実させ、児童が自主的に復習に取り組むよう、計画表をしっかり立てさせ、習慣化させる。 ・2月に行われた小中連携での話し合いを基に、計画的に連携を行っていく。 ・情報部を中心に、他学年が行っているICT活用の仕方を共有する機会を設ける。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・1単位時間における運動量の確保 ・鉄棒、持久走、縄跳びなど運動遊びの充実 ・25分休みでの外遊びの推奨	・すすんで体育を学んでいる（児童アンケート肯定的回答80%）	B	B	○児童アンケート「すすんで体育を学んでいる」の肯定的回答は84%だった。 ○鉄棒・持久走・縄跳びなどの運動遊びに、すすんで取り組み、記録や技能の向上が見られた。 ●休み時間にすすんで外遊びをしない児童がいる。	B	・これからも、鉄棒や持久走、縄跳びなどの運動遊びを充実させてほしい。	・授業の中でめあてを明確にし、少しでもできたことを認めながら、すすんで体を動かすことが楽しいと感じるようにしていく。 ・クラス遊びを充実させ、児童ができる遊びのレパートリーを増やす。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・各学年年間指導計画に基づく探究的な学習の設定。 ・計画的な読書ノートの活用。 ・学校図書館を使用した調べ学習の実施。	・各教科で読書科ノートを活用した学習の実施（教員アンケート80%） ・学校図書館での調べ学習に取り組んだ。（児童アンケート肯定的回答80%）	B	B	○児童アンケート「学校図書館での調べ学習に取り組んだ」の肯定的回答は、90%だった。 ○年間指導計画に沿って、読書科を進めることができた。 ●読書科ノートの活用が十分でなく、各教科指導に生かすことができなかった。	B	・来年度も、積極的に図書室を活用した調べ学習に取り組み、探究的な力をつけてほしい。	・来年度も、タブレット端末や本を活用し、探究的な学習を進めていく。 ・各教科の年間指導計画から読書科ノートの活用を設定し、計画的にすすめていく。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・毎週の特別支援の情報共有・支援の検討 ・月１回の校内委員会、ケース会議、研修の実施 ・保護者、外部機関等との連携	・配慮、支援を要する児童の把握（100%） ・配慮児童への支援（100%）	B	B	○校内委員会でのケース会議等を行い、配慮、支援を要する児童の実態を全体で把握できた。 ○特別支援教育コーディネーターや特別支援専門員、SCと連携して支援することができた。 ●不登校児童や支援が必要な児童の把握はしているが、支援を模索している。	B	・来年度も、特別支援教育コーディネーターや特別支援専門員、SCと連携して、引き続き子に応じた支援をすすめてほしい。	・来年度も、SCやSSW、教育相談など、外部機関と連携しながら情報交換し支援を行っていく。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・生活指導連絡協議会の活用 ・毎週の夕会における情報共有 ・いじめに関するアンケート、授業年3回 ・配慮児童の保護者との面談実施 ・不登校の組織的対応、対策委員会の定期的開催	・いじめ問題解決（100%） ・配慮児童との保護者面談（100%）	B	B	○毎学期、いじめアンケートの聞き取りを実施し、早期解決に努めた。保護者との情報共有もすぐに行った。その後も、関係児童に声をかけ、様子を確認している。 ●いじめアンケートで書かれたことを継続的に見守り、指導していく。	B	・朝の登校の様子を見ていると、1年生の挨拶が出来て声を出しているので、全体的に良い方向であると感じる。引き続き、今の努力をお願いしたい。	・来年度も、いじめの未然防止、早期発見、素早い対応を行っていく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	地域連携教育の推進	保護者・地域・外部の教育資源を取り入れた教育活動の充実	・コロナ感染症対策を踏まえた学年単位での学期1回の取組	・体験的学びや交流の楽しさを感じる児童（児童アンケート80%）	B	B	○学期に1回、学習内容と関連する地域、外部の資源を取り入れた教育活動を実施することができた。 ●体験的学びや交流の楽しさを感じる児童アンケートが、77%だった。	B	・コロナ禍でも、外部の教育活動を進めていただき、ありがとうございます。来年度もよろしくお願いします。	・来年度は、より一層児童が楽しさを感じられるように、内容の精選と地域の活用を行う。
	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校全体への周知 ・教職員、児童、保護者、外部評価の実施 ・中間評価と年度末における評価を基にした改善策の実施	・外部評価「教育アンケート」の肯定的回答A・B合わせて80%	B	B	○中間評価に基づき、学年で話し合い、2学期以降の指導に生かすことができた。 ●外部評価「教育アンケート」の肯定的回答A・B合わせて76%だった。	B	・学校の様子を聞く機会がなかったので、来年度はもっと増えていくとよい。	・来年度は、評価、具体的な取り組み内容について保護者へ分かるように取り組んでいく。
特色ある教育の展開	異年齢集団によるなかよし班活動	異年齢集団による交流活動の充実	・昼休みと掃除の時間を使用した6年生を中心とした「なかよし班活動」の実施	・なかよし班活動に楽しさを感じる児童（児童アンケート80%）	A	B	○・なかよし班活動に楽しさを感じる児童アンケートの回答が84%だった。6年生を中心として、児童は異年齢集団による交流活動を楽しむことができた。 ●コロナにより、活動（遊び）の種類が制限された。	A	・低学年の子供には、上級生との交流は、とても良い経験で、新鮮だと思います。たいへん良い取組だと思います。	・来年度は、遊びの内容の充実、給食交流やお別れ会等に取り組んでいく。
	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・月2回の定時退勤日の設定 ・部会内のバランスの取れた仕事の分担 ・見通しのもてる定期的な学年会 ・SSSや学年アシスタントによるサポート	・月の残業時間45時間以内70%	B	C	○SSSによるサポートや学年アシスタント、介助員等のサポートが業務軽減につながった。 ●人員不足により、仕事量が増え、月の残業45時間を超える月が多かった。	B	・子供たちのために、来年度もよろしくお願いします。	・来年度は、計画的に定時退勤ができるように効率的に仕事を進める。また、全職員で協力し合いながら、仕事を進めていく。